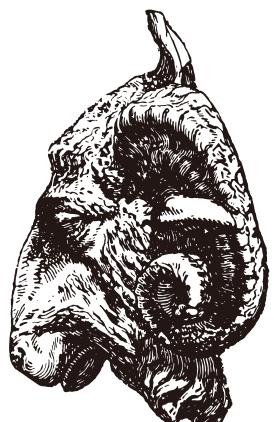


**Bigakko
Guide
2023**

美学校
2023 年度 10 月期
募集要項



美学校



美学校基本構想

裾野に至って現代における美意識（倫理）への介入という想定に立ちつつ

現在の美学校を全構想かつ最高形態の追求として位置づける

教えをうけることを、みずからの意志として据えて、欲するものを得ることはあるとしても、

教えることをみずから意図し、果たしうるということはないのであって、

教える意思は、生徒の脳皮質をかすめて消えるのである。

総じて耳目を通し、すなわち空間を媒介として、達して頭脳にいたるコースにおいてそうなので、

脳皮質を駆撃して残るのはきわめて生理的な衝撃感ということだけであったり、

あるいは、金蒔絵に使う筆は舟ねずみの毛で作らなければいけない

といったことだけで終わるのである。

そこで、教えられる機関は考えるとしても、教える機関は考えるわけにはいかぬ。

そこで、最高の教育とは、教える意志をもたぬものから、

必要なものを盗ませるということになろうか。

美学校
1969 - 2023

第55期2023年度生徒募集にあたって

美学校は1969年に現代思潮社という出版社によって設立されました。設立された背景には、既存の学校教育に対するアンチテーゼがあったそうです。あつたそうだと伝聞形で書くのは、開校から50年を経たことによる人的、時代的な断絶があるからです。そして、それに伴って美学校も別の運動体へと変化してきました。

わたしたちは美学校をいわゆる「学校」という静的なものではなく、有機的な運動体として捉えています。ここでは美術や音楽を中心とした様々な教程を開講していますが、そこは技術や知識を体験的に身につける場であると同時に、様々な出会いや実験が起こり、そして自由と自治が存在する場にしたいと思っています。自由と自治というと難しく聞こえるかもしれません、自分たちが美術や音楽を通して勝手気ままに楽しむための場所を作りたいということです。自分が楽しむということは、興味を持って楽しめる何かを見つけるということです。そして、その興味が他者や社会へと繋がることによって、世界が広がっていくのだと思います。それはわたしたちが50年以上に渡って歩んできた道でもあります。

受講にあたっては、ただ絵を描きたい、音楽を学びたいといった理由で充分です。その気持ちが大切だと思います。経験や年齢は誰も気にしませんので、勇気を持って飛び込んでください。初めてここを訪れる人はきっと美学校を変わった場所だと思うことでしょう。それは校舎が築50年以上の古いテナントビルのワンフロアであったり、古本やチラシや何だかよくわからない物あまりにも雑然としていたり、フランクな講師やスタッフがいたりするからかもしれません。ですが、そんな光景も見慣れてしまえば、特別なものではなくなります。学校では、あれをしてはいけない、これをしてはいけないと言われてきたと思いますが、本当にしてはいけないことなんてそういうはずです。ここは自由です。

教程は5月から始まり翌年の3月で终わります。この一年は長いようで短いです。美学校での一年間をどう過ごすか。それはあなたの想像力と行動次第です。みなさんや講師はもちろん、関係する様々な人々、そしてわたしたち自身にとって、これからが面白くなるようわたしたちは尽力します。

2023 年度 10 月期教程（2023 年 10 月～2024 年 3 月）

19 教程の中から複数教程の受講も、1 教程のみの受講も可能です。

10 月期募集教程は 5 月より開講している通年教程への編入となります。

〈絵画〉

- 細密画教場
- 生涯ドローイングセミナー
- テクニック&ピクニック
- 造形基礎 I
- 超・日本画ゼミ
- ペインティング講座

意志を強くする時

- 自分を越えた作品を計画的につくる方法と発表の実践
- POP ILLUSTRATION 塾
- イベント・プロデュース講座

〈版画／写真〉

- シルクスクリーン工房
- 石版画（リトグラフ）工房
- 銅版画工房
- 版表現実験工房（銅版画）
- 写真工房

〈作曲／作詞〉

- 楽理基礎科（オンライン／対面）
- 作曲演習（オンライン）
- 歌う言葉、歌われる文字（オンライン／対面）
- 実践！自己プロデュースと作品づくり（オンライン）
- 楽理中等科（募集なし）

〈D T M〉

- アレンジ & ミックス・クリニック（オンライン）
- 魁！打ち込み道場（オンライン）
- サウンドプロダクション・ゼミ（オンライン）

〈現代美術〉

- アートのレシピ
- ビジュアル・コミュニケーション・ラボ
- 芸術漂流教室
- アンビカミング：シャドーフェミニズムズ
の芸術実践（対面、オンライン）※1
- 未来美術専門学校
- 現代アートの勝手口

〈研究室〉

- 美楽塾
- ライター講座（オンライン／対面）

オープン講座

* 10 月期教程以外にも不定期で様々なオープン講座を開講しています。オープン講座は誰でも受講可能です。
詳しくは WEB サイトをご覧ください。

〈様々な分野〉

- モード研究室《ファッショングの現場から》
- 実作講座「演劇 似て非なるもの」
- 特殊漫画家 - 前衛の道
- 劇のやめ方
- 建築大爆発
- アートに何ができるのか

※1 対面とオンラインで回ごとに交互に開催します。対面のみ、もしくはオンラインのみの参加はできません。

2023 年度 10 月期 時間割

	13:00 ~ 17:00	18:30 ~ 21:30, 19:00 ~ 22:00, 19:00 ~ 21:30, 他
月	・シルクスクリーン工房	・芸術漂流教室 ・実作講座「演劇 似て非なるもの」(※ 1) ・テクニック & ピクニック ・サウンドプロダクション・ゼミ ・ライター講座
火	・石版画（リトグラフ）工房 ・ビジュアル・コミュニケーション・ラボ	・アンビカミング：シャドーフェミニズムズの芸術実践 ・特殊漫画家 - 前衛の道 ・劇のやめ方 ・アートに何ができるのか ・魁！打ち込み道場 ・POP ILLUSTRATION 塾
水		・細密画教場 ・版表現実験工房 ・楽理基礎科 ・作曲演習 ・楽理中等科
木	・ペインティング講座 ・銅版画工房	・生涯ドローイングセミナー ・アレンジ & ミックス・クリニック ・美楽塾 (※ 2) ・ペインティング講座 ・実践！自己プロデュースと作品づくり
金	・写真工房 ・自分を越えた作品を計画的につくる方法と発表の実践	・実作講座「演劇 似て非なるもの」(※ 1) ・建築大爆発 ・現代アートの勝手口 ・歌う言葉、歌われる文字
土	・アートのレシピ ・造形基礎 I	・モード研究室 ・超・日本画ゼミ
日	・超・日本画ゼミ ・意志を強くする時	・未来美術専門学校（不定期開催）

※ 1 実作講座「演劇 似て非なるもの」は、週替わりで月曜日と金曜日の交互に開催します。

※ 2 「美楽塾」の授業曜日・時間は、回によって変更になる場合があります。

入 学 案 内

2023 年度 10 月期教程の受講を希望される方は、入学規定をお読みになってから以下の手順で入学手続きを行ってください。（オープン講座は、入学手続きは不要です。WEB サイトの講座ページより直接お申込みください。）

入学手続きの手順

1、申込み

当校 WEB サイトの受講申込みフォームに必要事項を入力して送信してください。

担当者から学費のお支払いについてのご案内をお送りします。

受講申込みフォーム

QR コード



※書類での申込み

書類での申込みも可能です。希望される方には申込書（入校志望書）を郵送いたしますので、事務局にお問合せください。

申込書（入校志望書）は郵送または持参にて提出してください。

2、学費・教程維持費の納入

申込み後一週間以内に学費・教程維持費を納入してください。学費・教程維持費の納入をもって入学手続き完了となります。複数教程の受講などで納入額が不明な場合は事務局にお尋ねください。

3、手続き完了後から受講までの流れ

編入の初回授業日は 10 月初旬～中旬となります。手続き完了後にメールにて授業日と持ち物のご連絡を差し上げます。郵便での連絡を希望する方は、お申込み時にお伝えください。

入学手続き締切り

2023 年度 10 月期 一次締切り 2023 年 9 月 30 日（土）

※一次締切りの時点で定員に達していない教程は、追加募集をする場合があります。

※学期が始まってから受講を希望する場合は、事務局にお問い合わせください。教程によっては受け入れ可能な場合がございます。その場合、時期、学費などご相談に応じます。

入校志望書の提出先・学費の納付先

《提出先・納付先》

〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-20 第 2 富士ビル 3F 美学校 本校 事務局

《振込み口座》

三菱 UFJ 銀行 神保町支店 （普通）2330142 有限会社美学校 [ユ] ビガツコウ]

入 学 規 定

資格

各教程のカリキュラムに指示するもの以外、学歴・年齢・性別その他の制限はありません。

期間

授業は10月から翌年3月までの定められた日程に行われますが、その間原則として12月24日から1月4日まで休みとなります。

入学手続き

受講申込みフォームからの申込み、あるいは入校志望書の提出と学費・教程維持費の納入をもって入学手続きとします。申込みは先着順で受け付け、各教程の定員に達し次第募集を締め切ります。入学手続きをもって本規定に同意したものとします。

定員

各教程の定員はカリキュラムに明示します。ただし、申込者数が最小開講人数に達しない時は開講しない場合があります。

学費および教程維持費

・構成

学費は、授業料、設備費によって構成されます。学費の他に教程維持費がかかります。

・納入方法

学費・教程維持費は、現金、銀行振込、クレジットカード（VISA、MASTER）のいずれかにて、全額を一括でお支払ください。

・割引

過去に在籍記録のある方、二年目以降の受講者は、学費の割引が適用されます。

・返金

一旦納入された学費および教程維持費は以下の場合を除きご返金はいたしません。

・定員超過によって受講ができなかった場合

・申込み教程が最小開講人数に達せず開講しなかった場合

・講師の急病等の理由により開講が困難となった場合

※病気や転勤などのやむを得ない事情により受講をやめる場合は、医師による診断書や勤務先の辞令等の提示があれば、残り授業回数の80%の学費をご返金いたします。

※オープン講座は異なります。当校WEBサイトの「特定商取引法に基づく表記」ページをご参照ください。

・分納

分納を希望する方は、事前に事務局にご相談ください。分納は原則的にクレジットカードによるお支払いのみとなります。クレジットカードのお支払いは一括のみの対応です。ご自身でお支払い方法を分割もしくはリボ払いに設定していただくことにより、分割払いが可能となります。学生の方でクレジットカードの限度額が足らない方は、別途ご相談ください。

在籍証明

教程の3分の1以上を欠席した生徒は、本校に在籍したこと認めない場合があります。

注意事項

申込み内容に虚偽があった場合は入学資格を取り消すことがあります。自己の入学資格および在籍資格を他人に譲ることはいかなる場合も認めません。本校に不利をおよぼし、あるいは、みだりに授業を妨害するなどの行為をした生徒は、本校の指示により除籍される場合があります。

学費は、授業料、設備費によって構成されます。学費総計の他に教科維持費がかかります。教科維持費は各教科のページに記載しております。過去に在籍記録のある方、二年目以降の受講者は、学費の割引が適用されます。

● 1 教科を受講する場合は次の学費となります。

	教科名	授業料	設備費	学費総計
A 教 科	細密画教場	180,000	5,000	185,000
	生涯ドローイングセミナー	180,000	5,000	185,000
	テクニック & ピクニック	180,000	5,000	185,000
	シルクスクリーン工房	180,000	10,000	190,000
	石版画（リトグラフ）工房	180,000	10,000	190,000
	版表現実験工房（銅版画）	180,000	10,000	190,000
	写真工房	180,000	10,000	190,000
	アートのレシピ	180,000	5,000	185,000
	ビジュアル・コミュニケーション・ラボ	180,000	5,000	185,000
	芸術漂流教室	180,000	5,000	185,000
	モード研究室	180,000	5,000	185,000
	造形基礎 I	募集なし	募集なし	募集なし
	超・日本画ゼミ	募集なし	募集なし	募集なし
	ペイントイング講座	募集なし	募集なし	募集なし
	銅版画工房	募集なし	募集なし	募集なし
B 教 科	未来美術専門学校	募集なし	募集なし	募集なし
	現代アートの勝手口	募集なし	募集なし	募集なし
	アレンジ & ミックス・クリニック	90,000	5,000	95,000
	アンビカミング：シャドーフェミニズムズの芸術実践	90,000	5,000	95,000
	特殊漫画家 - 前衛の道	90,000	5,000	95,000
	劇のやめ方	90,000	5,000	95,000
	建築大爆発	90,000	5,000	95,000
	アートに何ができるのか	90,000	5,000	95,000
	美楽塾	90,000	5,000	95,000
	楽理基礎科	募集なし	募集なし	募集なし
	楽理中等科	募集なし	募集なし	募集なし
	作曲演習	募集なし	募集なし	募集なし
	実践！自己プロデュースと作品づくり	募集なし	募集なし	募集なし
	サウンドプロダクション・ゼミ	募集なし	募集なし	募集なし
C	魁！打ち込み道場	募集なし	募集なし	募集なし
	自分を越えた作品を計画的につくる方法と発表の実践	募集なし	募集なし	募集なし
	ライター講座	募集なし	募集なし	募集なし
	イベント・プロデュース講座	募集なし	募集なし	募集なし
C	実作講座「演劇 似て非なるもの」	155,000	5,000	160,000

D 教 程	歌う言葉、歌われる文字	募集なし	募集なし	募集なし
	意志を強くする時	募集なし	募集なし	募集なし
	POP ILLUSTRATION 塾	募集なし	募集なし	募集なし

● 2 教程を受講する場合は以下の学費となります。

● 3 教程以上の受講を希望する場合は事務局までお問い合わせください。

教科分類	授業料	設備費	学費総計
A 教程 + A 教程	240,000	10,000	250,000
A 教程 + B 教程	240,000	10,000	250,000
A 教程 + C 教程	240,000	10,000	250,000
B 教程 + B 教程	155,000	10,000	165,000
B 教程 + C 教程	240,000	10,000	250,000

※教科維持費は各教科ごとにかかります。教科維持費は各教科のページに記載してあります。

●過去に在籍記録のある方、二年目以降の受講者は、下記の通り学費の割引が適用されます。

教科分類	学費総計 → 割引後学費総計
A 教程	185,000 → 155,000
	190,000 → 160,000
B 教程	95,000 → 80,000
C 教程	160,000 → 135,000
A 教程 + A 教程	250,000 → 215,000
A 教程 + B 教程	250,000 → 215,000
A 教程 + C 教程	250,000 → 215,000
B 教程 + B 教程	165,000 → 155,000
B 教程 + C 教程	250,000 → 215,000

※教科維持費は各教科ごとにかかります。教科維持費は各教科のページに記載してあります。

※教科維持費の割引はありません。

オンライン教程の使用ツールとガイドライン

オンライン教程の使用ツールについて

全てのオンライン教程に共通して授業では主に以下の2つのツールを使用します。

ZOOM——授業プラットフォームです。アプリ版の使用を推奨しますが、ブラウザからの参加も可能です。

Discord——授業補助として利用するチャットツールです。各教程ごとにクローズドのグループを作成し、そちらで毎回の授業リンクをご案内します。そのほか課題提出、コミュニケーション等のプラットフォームとして使用します。

オンライン教程についてのガイドライン

当校ではオンライン教程の開講にあたって、受講生のプライバシーや個人情報の保護に配慮し、以下のガイドラインを定めています。受講に際しては、下記をご了承のうえお申し込みください。

1) プライバシーと個人情報に関して

- ・授業中の顔出しは任意です。プライバシーが気になる方はカメラをオフにしてご参加ください。
- ・学習目的以外でのZOOM画面やDiscord、講師による共有画面のスクリーンショットはお控えください。
- ・学習目的で講師画面や板書をスクリーンショットする際は、他の受講生が写り込まないようご配慮ください。
- ・スクリーンショット画像の第三者への譲渡や開示、SNSへの投稿などは固く禁じます。
- ・Discord上で行われたやり取りに関して、特に個人情報を含むものは第三者への開示、SNSへの投稿などはご遠慮ください。ただし、個人的な感想や意見等についてはその限りではありません。
- ・授業画面のスクリーンショットなどを広報に利用させて頂く場合があります。その際は原則として受講生の画像・画面にはモザイク・ぼかし処理を行い、個人が特定されない形で使用いたします。
- ・Discord上のダイレクトメッセージなど受講生同士による個々のやり取りは良識の範囲内で行ってください。
他受講生への迷惑行為が確認された場合は即座にDiscordの利用を停止いたします。
- ・必要に応じて受講生に授業内容のアーカイブ動画を提供します。アーカイブ動画の第三者への譲渡や開示、SNSや動画サイト等への投稿を行うことはありません。また、同行為を固く禁じます。なお、アーカイブ動画提供の有無については教程ごとに異なります。詳しくは個別の教程ページをご確認ください。

2) 課題作品や配布物について

- ・課題作品はDiscord上の指定されたチャンネルに提出いただき、受講生全員で共有されます。
- ・授業で用いる教材も同様にDiscord上にて配布します。
- ・提出された受講生作品や配布物の第三者への開示、SNSへの投稿等は固く禁じます。
- ・提出された受講生作品の権利は作者に帰属します。提出された他受講生の作品を参照したり、リミックス等で二次的に使用する際は、お互いに承諾を取り、作品へ敬意を持ってお取り扱いください。

3) セキュリティについて

- ・ZOOMの授業リンクは都度生成し、パスワード保護されます。参加にはスタッフの認証を設けていますので、第三者が無断で入室することはありません。ただし、複数の事務局スタッフが立会いのため予告なく参加する場合があります。
- ・セキュリティ向上のため、ZOOMは最新版をインストールするようしてください。
- ・Discordグループは受講生と講師、スタッフのみ参加を許可されます。第三者が無断で参加することはありません。
- ・主にWindows環境においてDiscordにマルウェア感染被害が報告されています。対策としてアプリケーションの再インストール、或いはアプリをインストールせず、webブラウザから仮アカウントを用いて使用頂くことで対応が可能です。事前に対策をご確認の上、ご了承の上受講いただけますようお願いします。

4) オンライン授業の見学について

- ・本校では受講を検討されている方の授業見学を随時行っており、オンライン授業も同様に見学が可能です。そのため、受講中の授業に見学者が参加する可能性があります。見学者にも受講生と同様に講座を体験していただくため、授業内で配布した資料や受講生の提出作品などは同様に見学者にも閲覧や視聴が許可され、必要に応じてデータが譲渡されます。
- ・見学者による授業内で配布された教材や作品の第三者への開示、SNSへの投稿等は固く禁じます。場合によってはデータの破棄にご協力ください。

説明会／見学・受講相談

説明会

下記の日程で募集教程の説明会を開催します。受講方法や各講座についての説明に加えて校舎案内を行います。説明会後には個別の入学相談も可能です。各回 90 分程度／定員 8 名。会場は本校です。
参加をご希望の方は QR コードからか、メールか電話にてお申し込みください。

説明会申込み QR コード



・9月5日（火）

19:00～ 《絵画、版画》

19:40～ 《現代美術、様々な分野、研究室》

・9月9日（土）

15:00～ 《絵画、版画》

15:40～ 《現代美術、様々な分野、研究室》

※アレンジ & ミックス・クリニックの説明はオンラインにて随時承ります。

説明会では話しませんので、ご希望の方は以下の見学・受講相談からお申し込みください。

見学・受講相談

授業見学および受講相談は随時受け付けております。

学校の雰囲気、講座の内容から、どの講座が合っているかなどの個人的なご相談まで、受講をご検討中の方もそうでない方も、お気軽にお越しください。

ご希望の方は QR コードからお申し込みになるか、メールか電話にて希望日をお問い合わせください。

受講相談はオンライン（ZOOM）でも可能です。

見学・受講相談申込み QR コード



※ 8月は夏季休暇で授業がないため見学は学内のみ可能です。

細密画教場

田嶋徹

定員：12名

授業日：毎週水曜日 18:30～21:30

教程維持費：5,000円（通額）

開催教室：本校

細密画は鉛筆や絵具の粒子を一筆一筆おいていき、長い時間かけて一つの作品を仕上げる根気のいる作業です。

まずものをよく見て、それを手に伝え、紙に描かれた像を見ることが脳にフィードバックされて、さらにものの見方が深化していく。

細密画の描き方を言葉にすると、このようになりますが、実際には一連の作業を、無意識下に、並列的に行っています。

そのような作業の回路が体の内にできて、いつでも取り出せるようになることそれが技術が身につくということです。

一年間で完成するというものではありませんが、その回路はこれから独自の技を磨いていくきっかけになるようなものです。

授業は週に一回しかありません。その何倍も自習しなければ一年が無駄になりますのでそのつもりで。

田嶋徹

授業内容

下書き

- モチーフをどの大きさで描くか、から始めて細部いたるまで、フリーハンドでかたちをとる技術
- 道具を使ってモチーフを計測して描く技術

鉛筆

- 明暗の階層表現、質感表現の技術

水彩

- 色調表現、質感表現の技術

その他

- 平面画像の模写
- 不透明絵具の描法

[生徒持ち用具・材料]

鉛筆各種・カッターナイフ・芯研ぎ器・練りゴム・消しゴム・羽ばうき・スケール定規・比例ディバイダー・トレーシングペーパー・カーボン紙・ケント紙・固形透明水彩絵の具各色・コリンスキーピン・ベニヤ板・水張りテープ・刷毛・アルシュ紙極細目・筆洗い器・梅皿
その他



講座 WEB ページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

生涯ドローイングセミナー

丸亀ひろや (+O JUN +宮嶋葉一)

定員：10名
授業日：毎週木曜日 18:30～21:30
教程維持費：5,000円（通額）
開催教室：本校

毎回のセミナーではドローイングの制作を行いますが、さてドローイングとはどういうものでしょう。これは Drawing と書いて英語で、"線を引く。図面"などを意味します。美術の世界では、紙などに鉛筆やペン、水彩などで描かれた表現形式を言います。そこで試しに紙の上に鉛筆で線を引いてみます。ところがその途端にドローイングという言葉や意味が少し足りない、あるいはボンヤリしてしまうことに気がつきます。これは言葉の間違いや不足ではなく、また君のイタラナサでもありません。君が、「この世」に線を引いたり色を塗ったりしたことで沈んでいた澱みを搔き起こしてにがらせてしまつたからで、その "混濁" を表す言葉が見つからないのと、たかが一本の線を引いた事の意味や理由がそう易々と見つからないからです。それをこれから生涯かけて探しに行きます。その長大な時間も "ドローイングする" と言ってもいいかも知れません。取りあえず今年がその一年目になります。

紙ならどんな紙でも、また描ける材料なら鉛筆といわずどのような画材でも結構ですので持参ください。教室では制作の他にいろいろな作家の方をお呼びして話をうかがったり、展覧会を見に行ったりします。

週に一回ドローイングの実習を行います。そのために各自持参するものは、紙、油彩以外の画材や筆記具（水彩、墨、鉛筆、クレパスなど）。尚、画材については隨時その使用法や種類の説明をします。また、一年間の実技演習において "描くこと" "描かれたもの" の意味をたえず自らに問い合わせながら描きためたドローイングで "マッペ"（ドイツ語のファイルの意。当ゼミではドローイングブックを意味する）を制作し、卒業制作展を行います。

O JUN

丸亀ひろや

1961年熊本県生まれ。1986年東京造形大学造形学部美術学科卒業。66-90年ドイツ・デュッセルドルフ美術アカデミー絵画専攻。91-94年ドイツ・デュッセルドルフ大学美術史専攻。おもに平面作品を制作。目の前の対象や印刷物の図像から抽象的な事柄まで様々なテーマを雑食的にドローイング、そこを足掛かりにした絵画作品は抑制が効いているがどこか即興の愉楽がある。

OJUN

1956年東京都生まれ。1982年東京藝術大学大学院美術研究科油画専攻修士修了。1984-85年スペイン・バルセロナ滞在。1990-94年ドイツ・デュッセルドルフ滞在。絵画・ドローイング・版画と、さまざまな媒体の平面作品を制作し、身の回りの日常的な対象を自身の視点で新鮮に捉え、その絶妙な線や色、空間は、見る者に新たな視点を与える。

宮嶋葉一

画家。1954年大阪府生まれ。1982年東京藝術大学大学院美術研究科油画修士課程修了。1988-98年ドイツ・デュッセルドルフ滞在。具体的な対象をモティーフに簡略化された線と強いストローク、対象に意味を持たせないスタイルが特徴。簡素化された構造と内包するユモアのセンスが楽しめる作品を一貫して制作。



講座 WEB ページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

テクニック&ピクニック ～視覚表現における 創作と着想のトレーニング～

伊藤桂司

本講座では、グラフィック、デザイン、イラストレーション、美術などの創作における技術の獲得（テクニック）と楽しさの探求（ピクニック）を目的としています。

この講座では、緊張やストレスから遠く離れ、“創る喜び” “壊す快感” “身体感覚” “『偶然』の重要性”と言ったキーワードを中心軸に据え、シンプルながら多様なアプローチを試みます。

人間はリラックスした状態が一番能力を発揮できるとシュタイナーも言っていますが、受講生の方には、この講座を通して自らの内に潜む才能の“原石”を発見してもらえばと思っています。

授業内容の一例

- ・テンプレートと定規のみを使って描く風景・人物
 - ・コラージュ
 - ・パースペクティブによる空間認識
 - ・模写
 - ・ZINE の制作
 - ・インプロヴィゼーション（2～3人のチームで即興的に大きめの支持体に絵を描く）
 - ・画材の実験（同じモチーフを異なる画材で描き、画材の特性を再認識・再発見）
 - ・ブラインドドローイング（目を隠して音楽を聴きながら、音から連想されるイメージを描く）
 - ・3ミニツドローイング（その場で聞いた言語のイメージを3分間で描く）
 - ・古本、中古レコードのカスタマイズ（神保町で入手した古本、中古レコードにコラージュしたり、落書きしたり、ペイントを施したり、自由な発想でカスタマイズし、世界に一つだけのアートピースを創る）
 - ・インプットとアウトプット（影響を受けた作家を再研究し、その方法論を援用した作品制作を試みる）
- など他多々

定員：10名

授業日：毎週月曜日 19:00～22:00

教程維持費：5,000円（通額）

開催教室：本校

伊藤桂司

1958年東京生まれ。'80年に雑誌 "JAM" "HEAVEN" でのデビュー以来、グラフィックワーク、アートディレクションを中心に活動。2001年東京ADC賞受賞。ティ・トウワ、スチャダラパー、キリンジ、バッファロー・ドーター、高野寛、ohana、オレンジペコー、愛知万博EXPO2005世界公式ポスター、イギリスのクラヴェンデール、SoftBankキャンペーン他多数のヴィジュアルを手掛ける。

「四次元を探しに / ダリから現代へ」(諸橋近代美術館)など他数々の国内外展示に参加。個展多数。作品集に『LA SUPER GRANDE』(ERECT LAB.)、『DAYS OF PAST FUTURE』(Alex Besikianとの共著)他多数。京都芸術大学大学院教授。UFG代表。<http://site-ufg.com/>



講座 WEB ページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

シルクスクリーン工房

松村宏

定員：10名
授業日：毎週月曜日 13:00～17:00
教課程維持費：15,000円（通額）
開催教室：本校

シルクスクリーン工房はプロフェッショナルとして立てるだけの技術を獲得し、版画にとどまらず、美術、デザイン表現の可能性を広げようとする工房です。

カリキュラムは厳しくも、バラエティに富んだ設定にしてあります。まずは基本的なトレーニングから始めましょう。手刷りですし、全ての工程を自身で進めることになります。1年をかけて制作作業を自分のカラダに覚えさせてください。

創作のアイデアは今までに見聞きしてきた情報からではなく、作業を進める行為、特に失敗の中から現れます。経験の有無よりも、粘り強い気持ちが求められます。

授業は週に1度ですが、1年間集中してシルクスクリーンに取り組みましょう。困難を乗り越える喜びを共有できる場でありたいと考えます。

松村宏



授業内容

【前期】

○シルクスクリーンプリント概論

○資材各論

写真製版法

感光製版材の研究

課題 I

　　フィルム・カッターワークへの習熟

課題 II

　　描画フィルムの製版

【夏季休暇・色彩研究課題】

【中期】

写真製版以外の製版法

素材・紙・インクの対応研究

課題 III

　　原紙の活用

課題 IV

　　ブロッキング法・フロッタージュ他

【後期】

各自の方向により、

コラージュへの展開

ファブリック他の素材への対応

【生徒持ち用具・材料】

アルミ枠・スクリーン・製版用具・感光製版材・カッター・砥石・スケール・版画用紙・水彩絵具 等



講座 WEB ページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

石版画（リトグラフ）工房

佐々木良枝+増山吉明

定員：10名

授業日：毎週火曜日 13:00～17:00

教程維持費：10,000円（通額）

開催教室：本校

石版画（リトグラフ）は、平版の版画です。平らな版材の上に油成 分を含む画材（墨、クレヨン、鉛筆等）で描いたものを直接版にして刷ります。クレヨンや鉛筆で描いたドローイングの自由な線や風 合いを出すことができ、また、筆やペンで描いた水彩画のタッチや にじみ、複雑な色合いを出すこともできます。版画の技法の中でもつ とも絵画に近いといえます。

石版画（リトグラフ）は水と油が反発する原理を応用し、描いた絵 を化学変化させて版にし、描画部分にのみインクを付着させ、プレ ス機で刷ることで絵を創ります。化学変化をさせて作る版である為、 描かれた画面が自分の意に反して、抑揚の無い平板な調子の乏しい ものになったり、絵が壊れたりすることもあり、「描き」「版作り」 「刷り」の技術や知識を習得する必要があります。

当工房では、石の版を使って技法を学びます（特殊な石であること や作業に水場なども必要なため、石を使っての作画が出来る工房は あまりありません）。石の版、また、金属版（アルミ版）、を使った 技法やPS版による写真製版技法も学びます。それできあがる 版の具合が違うので、特質を知り、活用できるとより幅広い表現方 法を持つことができます。

石版画（リトグラフ）は、さまざまな“描く”で自分の絵画表現を 探求することが可能です。描くでも版を媒介とするので、思いがけないものにも出会ったりする喜びがあります。自分のイメージに接 近していくには、手を動かし絵を描き、絵を創りあげていくことで す。そうすることで、自分の方法を見つけていくのではないでしょ うか。

佐々木良枝

授業内容

【前期】

- 石版による制作（石の研磨・描画・製版・刷り）クレヨン画、ペン画、解き墨画
- PS版（写真製版）による制作（描画・感光製版・刷り）コラージュ、フロッタージュ、ドロッピング等

【中期】

- 石版石による制作
- PS版多色刷りによる制作
- 表現について考え、自分の表現方法の模索・構築
- アルミ版による制作

【後期】

- 自由制作
- 制作発表の方法論学習（作品の見せ方、空間づくり等）

【生徒持ち道具・材料】

描画材料 クレヨン・解き墨・筆・インク・アルミ版・PS版その他
版画用紙 あて紙・試し刷り用紙・本刷り用紙

表現のために／自分を貯める—構築する

- 探し取材する・切り取る・決める・盗み取る等の作業
- 「かわいい」「きれい」「かっこいい」「おもしろい」自分が心惹かれるもの、おもしろいもの…自らを動かしうる動機（モチーフ）
- よく観察する・考察する・認識する
何故それがいいか、どんな方法だから、こんな風に見えるのか、自分の嗜好、好むものをより認識する
- 言葉にする
観察して、考察して認識したものを言葉にする。思考し、曖昧とした考えを明確化する、潜在意識が引き出される
記憶は薄れる、言葉にしたもののは残る
人に自分の言葉を示し、人とディスカッションすることで、より明確化し、付け加えられる
- 貯めていく
貯めたものを増やしていく、連想を広げ、よりイメージ化する、たまたま情報を編集する。
どんな表現方法で何を表現するか思考する／一つの表現方法として、この工房では、リトグラフを制作する。



講座 WEB ページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

版表現実験工房（銅版画）

清野耕一

定員：10名

授業日：毎週水曜日 18:30～21:30

教程維持費：10,000円（通額）

開催教室：本校

銅版画（凹版）の制作は、薄い銅版表面で繰り広げるマイナスの作業といえます。直接鋭利なニードルで引掻いたり、強酸の力で腐食（エッチング）したり、様々な薬品や道具を使い随分と手荒なプロセスを踏みます。このように出来上がる銅版の原版は、その凹部に詰められたインクとエッチング・プレス機の物凄い圧力によって、最終的に紙の表面に反転しプリントされます。……この瞬間、皆さんは銅版画の表現効果に魅了されるでしょう。鋭く自在な線、微妙で繊細な濃淡面、重厚な質感。

……その転写されるイメージは、ドローイングやペインティングと全く異なるからです。

世界的なIT化とグローバル化が急速に進む中で、私達の日常生活にも「デジタル・カルチャー」が浸透し大変化をもたらしています。「効率化・便利さ」を追求する社会的なうねりは、一方で機械に頼りながら、汚れ仕事を嫌い、面倒くさいことを避ける行動を私達に植え付けていると云えるかもしれません。「自らの手を使い、身体を動かし、汗を流し悪戦苦闘する姿勢」を拒む風潮の中で、大切な何かが失われようとしているのでしょうか。

「版表現実験工房」は、そんな問い合わせに対応しながら、初心者ののみならず、銅版画や他版種の経験者にも門戸を広げる場です。銅版画制作のための技術力を習得するだけでなく、直接銅版と触れ合うことによってモノ作り本来の楽しさを経験し、美術表現を創造する「発見」の場を目指します。同時に、絶え間ない地道な制作を通じて「自己を見つめる姿勢を培うこと」に重点を置きたいと考えています。

従来の「オリジナル版画」（平面・複数性を土台とする版画表現）の垣根を取り払い、柔軟に他のメディアとの交差を図り、新たな表現スタイルを研究し模索する実験的な制作現場になることを目標とします。この工房の参加者は、より積極的な制作意欲と発表の機会設定が求められます。

参加者の年代・経験・背景を超えて「互いが刺激・影響し合える制作現場」になることを期待します。

清野耕一

授業内容

【前期】

彫刻技法の基礎研究と制作（ドライポイント・メゾチント）
腐蝕技法の基礎研究と制作（エッチング・アクアチント）
☆前期講評会

【中期】

腐蝕技法の応用研究と制作（リフトグランド・ソフトグランド）
刷り技法の応用研究と制作（雁皮刷り・凹凸版刷り・多色刷り）
☆中期講評会

【後期】

写真製版技法の研究と制作（フォトエッティング）
併用技法による自由制作
☆後期講評会

【研究課題】

- A) 複数性と間接性
- B) 版の表面性と被写体
- C) 3次元の平面構成
- D) メディア・ミックス

【生徒持ち道具・材料】

銅版・版画用紙・ニードル・スクレッパー・バニッシュヤー・作業着・腐蝕用ゴム手袋 他



講座 WEB ページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

写真工房

西村陽一郎

定員：10名
授業日：毎週金曜日 13:00～17:00
教課程維持費：10,000円（通額）
開催教室：本校

モノクロフィルムや印画紙などの感光材料を使って、昔ながらの銀塩写真の基礎を学ぶ工房です。暗室作業が中心です。光と感光材料の関係、カメラの持ち方やフィルムの入れ方など、初步的なところから順を追って実習を進めていきますので、まだフィルムカメラを持っていないという初心者の方でも大丈夫です。

基本的にピントや露出はマニュアルで撮影します。慣れない操作に手間取って初めは思ったような瞬間が撮れないかもしれません。またフィルムや印画紙、薬品類など銀塩写真で使用する材料はデリケートなので、丁寧に取り扱ってあげなければせっかく写した光も、きちんとした像（かたち）となって現れてはくれません。ある程度のクオリティでモノクロ写真を撮影しプリントができるようになるまでには少し時間がかかることを覚悟して、まずは自分で撮った写真を自分で現像し、引き伸せるようになります。そして毎週1回、これをこつこつと続けて下さい。一通りのやり方を覚えたら、学校の暗室は授業日以外も自由に使えるようになりますので、やりたいひとは何度でも、納得がいくまで制作をする事ができるでしょう。

大切なのは、自分の好きな写真となるべくたくさん撮って、たくさんプリントする事です。

一年間あつという間だと思いますが、皆で共に楽しみながら、真剣に写真と取り組んでいきましょう。

西村陽一郎

授業内容

【前期】

- ・暗室体験
(フォトグラム、サイアノタイプ、ピンホール)
- ・モノクロ写真の基礎
(撮影、現像、ベタ焼き、プリント、スポットティング)

【中期】

- ・作品の仕上げ方
(ドライマウント・マッティング)
- ・暗室実習
(号数合わせ、焼き込み&覆い焼き)
- ・撮影実習
(フラッシュ、クローズアップ)
- ・中判カメラ

【後期】

- ・大判カメラ
- ・調色
- ・作品制作

【生徒持ち道具・材料】

35mm一眼レフカメラとレンズの他、感光材料と薬品、整理・保存用品などの消耗品



講座 WEB ページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

アートのレシピ ～松蔭浩之のラディカル・ヒストリー・アワー～

松蔭浩之+三田村光土里

せつかくだから、ちょっと変わったことを言っておこうと思います。いや、そもそもこの「変わったこと」について思いを巡らせること、人のやっていないことを考えだして、ひねりだして形にすることこそが ART の真髄なんで……その、「変わったこと」ですから、最初は全くもって理解不能かも知れず、あなたの普段の価値観とか常識とか正義感とか人生設計とかとはけっこうズレたりしているかもしれない。けれども、気持ち次第では実に面白可笑しい人、作品、出来事、あなたのきっと知らない古今東西の本物の変わりモノを紹介しつつ、やはり「変わった」考え方、見方、とらえ方をしてみることで、新しい刺激的な経験になりうるというお話を長い間続けています。

例えば、100年ちょっと前になりますが、ヨーロッパで起こった反芸術活動『DADA』と、1960年代に日本で制作放送された子ども向けテレビ番組『ウルトラマン』との関連を考察し、「怪獣」を解剖してみるとか、'80年代初頭に全世界的に突然変異のように起こった、DIY精神に満ちあふれたロックバンドやミュージシャンたちの奇跡から学ぶとか、私が19歳から3年間師事した森村泰昌はじめ、先人たちから培って確立した「私の写真論」をもとにセルフポートレイトを実践する……など、松蔭浩之の自分史における、ラディカルな事象を吟味検証して紹介、流行り廃りに左右されない普遍性の探求、その追体験と伝承、すなわち、ラディカル・ヒストリー・アワーを共有することが、この講座最大の特徴です。

この『レシピ』では、俗にいう「現代アート」に限らず、音楽、映画、サブカルもアングラも含めた文化全般を視野に入れた講義、ワークショップを実施します。かならずしもアーティストを養成することが目的ではないですが、節々でアートの実践を体験してもらうことで、クリエイティビティー（＝創意工夫）の本質を知ることを目指します。

不定期に開催の「三田村光土里のときどきアートサロン」では、三田村光土里が豊富な経験とインスピレーションで、制作のお悩みをコンサルティングします。

変わったことが好きではない。もしくは、変わることを恐れる方にはおススメできませんが、好奇心おう盛で柔軟な思考性を持つあなたには最適の講座になることでしょう。

定員：12名
授業日：毎週土曜日 13:00～17:00
教科維持費：5,000円（通額）
開催教室：本校

松蔭浩之（まつかげひろゆき）
現代美術家、写真家。福岡県出身。
1988年大阪芸術大学写真学科卒業。
1990年アートユニット「コンプレッソ・プラスティコ」でベネチア・ビエンナーレに世界最年少で選出される。以後、数多くの国内外個展やグループショー、シンガポール・ビエンナーレ（2006年）ほか国際芸術祭に参加。写真作品を中心にインスタレーション、パフォーマンス、ミュージシャン、執筆、グラフィックデザイン、俳優、映画監督など多岐に渡って活動を続ける。アートグループ「昭和40年会」（1994年結成。現メンバーは会田誠、有馬純寿、小沢剛、大岩オスカール、パルコキノシタ、松蔭浩之の6人）では会長を務める。
宇治野宗輝とのロックデュオ「ゴージャラス」（1997年結成）では国内外でのライブを盛んに行なった。また、2016年再始動したポストインダストリアルグループ「PBC」（1987年結成）でも演奏活動を続ける。俳優としては金子雅和監督『アルビノの木』など数々の作品に出演。監督作品は、画家の会田誠を主演に起用した『砂山』（2012）、若林美保主演の『LION』（2018）がある。

三田村光土里（みたむらみどり）
愛知県生まれ 東京在住
「人が足を踏み入れられるドラマ」をテーマに、写真や映像、言葉や日用品などの多様なメディアで構成した空間作品を国内外で発表。私的な追憶から浮かび上がる不在感が、日常の哀愁や感傷を観る人の内側に投影する。
世界各地で人々と朝食を共にする滞在制作“Art & Breakfast”では、フィールドワークで集めた材料でインスタレーションを作り続け、文化的境界を越えて共感する価値観をユーモアと批評的な眼差しで俯瞰する。
2003年、日本の新進作家展・vol.2（東京都写真美術館）。
2005年、文化庁新進芸術家海外派遣（フィンランド三都市巡回個展）。2006年、ウィーン分離派館・セセッションにて個展。2011年、二国間交流事業プログラム派遣（メルボルン、オーストラリア）、あいちトリエンナーレ2016。
2017年、ウィーン美術アカデミー滞在招聘作家。2019年、Japan Unlimited展（ミュージアム・クオーター・ウィーン）、他多数。



講座 WEB ページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

松蔭浩之

ビジュアル・コミュニケーション・ラボ ～ゼロから始める現代アート制作～

斎藤美奈子

定員：10名
授業日：毎週火曜日 13:00～17:00
教程維持費：5,000円（通額）
開催教室：本校

この講座は、作品制作を中心に、現代美術に関する講義をはさみながら進めています。最終的に、それぞれがテーマを見つけ、美術作家として創作していくために必要な力を身につけることを目的としています。

あなたの興味や関心、あるいは、心のなかにある大切な何かを拾い上げて、どんなふうでも構いません、それを見える形にしてみる。まず、そこからスタートしましょう。そして、それを、より明確なものにしていく作業を繰り返して行きます。“作品”と呼ばれるものは、そうして出来上がったものることをいうのだと思います。

具体的な表現手法は、インスタレーション、立体、絵画、写真、ビデオなどといった、さまざまなもの試しながら、自分に最適なものを見つけてください。可能性の芽を膨らませ、独自の表現を可能にするため、制作の方向性や進度は個別に対応することを基本とします。みなさんに伴走しながら、その道案内ができれば、と考えています。

一年を通じて前半は、緩やかなカリキュラムに沿ったもの。後半は、各自のテーマで制作ていきます。最後には、展覧会を開催し、その成果を発表します。みんなで展覧会を見に行ったり、また、個展やグループ展の開催、レジデンスへの参加などといった校外での活動も応援します。

興味はあったけれど、作品なんて今まで作ったことがなかったという人から、すでに作品を発表している人まで、美術というものに少しでも興味があれば、どなたでも大歓迎です。

斎藤美奈子

授業内容

■ 作品制作

- 1：受講生からヒアリング
……作りたい作品の傾向などを確認していく
- 2：講師と受講生で話し合い課題を煮詰める
- 3：課題による作品制作
例・風を描く、表現する
・目で見ず触って物を描いてみる
・身近な素材を使った表現
・写真を使った表現
- 4：各自の課題で作品制作
- 5：修了展開催

■ ミニ講義

- 1：リカちゃんハウスとドールハウス
……国や地域による空間認識の違い
- 2：書道は芸術か？
……アートの定義とは何か
- 3：写真
……その出現でアートはどう変わったか
- 4：現代美術の流れ
……1950年代以降の変遷と作品紹介



講座 WEB ページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

芸術漂流教室

倉重迅+田中偉一郎+岡田裕子

定員：9名

授業日：毎週月曜日 19:00～22:00

教課程維持費：5,000円（通額）

開催教室：本校

「芸術漂流教室」は、倉重迅、田中偉一郎、岡田裕子を中心に、ゲスト講師も招きながら展開していきます。3種の異なる講座で構成されるこの教室は、一粒で3度おいしく、3倍以上の楽しみ方があるはずです。現代美術の領域で活動しながら他ジャンルにも軸足を持つ、無駄に経験値の高い講師陣とともに「楽しく」「真面目に」漂流しましょう。

ArtLife Hacks (ALH) 講師＝倉重迅

アートを通じて人生のクオリティを高める講座です。アートは決して美大卒やフルタイムアーティストだけのものではありません。考える、議論する、制作する、発表することなどを通して自分自身とアートとの最適な付き合い方や距離感などを見つけ、各々の人生にフィードバックすることができたら、と思います。私自身は映像畠の人間ですが、映像制作やワークショップはもとより、インスタレーションや立体作品などジャンルを問わず扱っていきます。

芸術小ネタ 100 連発小屋 講師＝田中偉一郎

強い作品づくりの発想をひろげるための講座です。発想の定番から、自由度の高い制作法などを、講義や実践、大喜利形式で進め、ときには3時間で制作も行います。多くの作家は、役に立たないプロセスやくだらない考えを、作品からなくそうとします。しかし、良い作品の良い青臭さやおもしろいやりすぎ感、圧倒的な存在感は、意外とそんなところから生まれたりするものです。発想の仕方がわからない人、アイデアはあるけどうまく形にできない人、ものづくりに行き詰まっている人、ただなんとなく刺激が欲しい人が、気楽にでも、熱意を持ってでも参加できる、「でまかせ」を実行する世界で唯一の芸術講座です。

ヒロコセンセイの芸術相談教室 講師＝岡田裕子

授業内での短期ワークショップや、各自の作品制作を通じて、美術作品を作ること、観ることの根本を考える授業です。現代の美術表現の現状も伝えていきます。

受講生ひとりひとりが、これからどう生きてゆこう、これからどう変化しよう、などを抱えています。そういう想いに対して、美学校の少人数制という利点を活かし、それぞれに丁寧に対話してゆきたいと思います。美術やその周辺領域に関しては、岡田裕子自身も表現形態や活動範囲が多岐にわたっておりますので、受講生各々に對して多様な可能性を提案しながら、実践的なアドバイスもできたらと考えています。

倉重迅 アーティスト

1975年神奈川県生まれ。フランス国立高等芸術大学マルセイユ（ボ・ザール）D.N.S.E.P課程修了。シドニービエンナーレ、笑い展（森美術館）、one fine day（サムソン美術館、韓国）など、国内外の展覧会に参加。近年は、CMやPV、TVなど、アートとは異なる環境の中での映像制作にも携わっている。

田中偉一郎 現代美術家

1974年生まれ、うお座、B型、現代美術作家。2011年の個展「平和趣味」など、2000年以降、作品を発表しつづけている。「六本木クロッシング2007」（森美術館）にてオーディエンス賞を獲得。著書に『スーパーふろくブック』（コクヨ）、『やっつけメーキング』（美術出版社）がある。「フォークデュオ永田」「日にちの歌」「ノーメッセージマン」などの音楽パフォーマンスもしており、その活動は、広く、浅い。

岡田裕子 現代美術家

ビデオアート、写真、絵画、インスタレーション、パフォーマンスなど多岐にわたる表現を用いて、自らの実体験——恋愛、結婚、出産、子育てなど——を通したリアリティのある視点で、現代の社会へのメッセージ性の高い美術作品を制作。国内外の美術館、ギャラリー、オルタナティヴスペース等にて展覧会多数。



講座 WEB ページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

アンビカミング： シャドーフェミニズムズの芸術実践 遠藤麻衣+ゲスト

定員：10名
授業日：隔週火曜日 19:00～22:00
教科維持費：5,000円（通額）
開催教室：本校、オンライン
(本校とオンラインで交互に開催します。)

この講座は、昨年オープン講座として始めた「シャドーフェミニズムズの芸術実践」を通年講座として展開したものです。

私は、これまでフェミニズムに関心を持って芸術的な実践をおこなってきました。なかでも、西洋中心主義的なネオリベラリズムがとりこぼしてきた領域にあるフェミニズムに関心を持ってきました。そのフェミニズムとは、クィア理論家のジャック・ハルバースタムが指摘するような「ネガティブ」で「パッシブ」な「シャドーフェミニズムズ」です。とはいえ、この系譜のフェミニズムと芸術実践の関連を学ぶ場が少ないと感じてきました。

そこで、そういった場を作つてみようと思い立つたのが、この講座の始まりです。

2010年代以降は、フェミニズムの第四の波として、それまでのフェミニズムに対するイメージの更新や読み直しがさかんに行われています。差別的な制度への関心が集まり、それが実際に是正されるといった変化を起こしています。芸術祭や展覧会の主題として目にすることも増えました。現在のフェミニズムは、人々に好まれ流行するという側面ももっています。このような波のなかにいながらも、この講座ではその波に乗るというよりは、むしろ波に溺れてみたり、波乱をもたらしたりするものとしてフェミニスト的な思考と実践を行っていきます。

授業構成は、理論編、実践編を交互に行い、理論編はオンライン開催、実践編は対面開催を予定しています。また、国内外のゲストを招いて、ワークショップやトークイベントも行い、創造性や知的な刺激が広がる場づくりを受講生とともに行つていきたいと考えています。

この講座でいう芸術実践は、発表形態等にこだわりではなく多様なあり方を想定しています。クィア・フェミニズム、ソーシャルプラクティスとしての芸術に関心を寄せるさまざまな方の受講をお待ちしています。

遠藤麻衣

授業内容の一例

■ 実践

おしゃべり：受講者の関心や意見交流、相談

発表会：それぞれの芸術実践を発表する

ワークショップ：受講者の関心に基づき、身体と思考の回路を開くような経験を作る

調査：芸術に関するアーカイブ機関を知り、受講生それぞれの調査に役立てる

■ 理論

クィア・フェミニズムの理論を芸術実践との関わりのなかで整理し、咀嚼する。

昨年のレクチャー例

- ・フェミニズム運動における「経験」って？
- ・クィアナス：「時間の速度」と「不安定性」
- ・ドラッグ：「演技」と「セルフケア」
- ・異種共同：「ネットワーク」と「物語」
- ・クィア・フェミニスト的な組織化とは
- ・アンチ・ソーシャルな欲望、愚かで非対称な関係
- ・物語やイメージの転用：神話、歴史、少女マンガ
- ・動物／護身／回復：逃げる場所、戦う準備

参考文献の共有

受講者主体の読書会

■ 不定期開催で、公開ゲストトークイベントも予定



講座 WEB ページ

モード研究室 ～基礎から学ぶ服作り～

濱田謙一

何かを想像し考え、自分の中に入り込み転がり込んで出てゆく瞬間の表現手段が服であつたら、どのような作品が生まれるのかをテーマに本講座は進められます。

服なんてしょせん寒さをしのぐための道具にすぎないのに、なぜ私たちは服を選ばなければならないのか？よくよく考えると単純な思想にぶつかります。

今のこの時代にこの服装なら問題ないとか・美しく見せたいとか・自分の性格に合ってるなど、いろいろな考え方で服を選びます。しかし実際には自分の意志で選んだつもりでも、モードの権力によって左右されていることが多いはずです。

本講座はモードを考えるところからスタートし服を作り上げるまでの授業です。経験の有無は問いません。

デザイン～素材～パターン（型紙）～縫製と服作りを中心とした実技と実際プロの現場ではどのような作業がおこなわれているのか、第一線で活躍している技術者、デザイナー等を招き講義をしていただきます。

そのなかで自分自身が表現するための服とはなにか？を一年間通して考え、物作り進めていきます。

濱田謙一

定員：6名
授業日：毎週土曜日 18:30～21:30
教程維持費：7,500円（通額）
開催教室：本校

授業内容

- 5月 オリエンテーション 表現1
- 6月 服の構造 表現2
- 7月 服の構造 表現3
- 9月 パターン実習 縫製、トワル作成
- 10月 パターン実習 縫製、トワル作成
- 11月 デザイン1 素材イメージ
- 12月 デザイン2 素材イメージ
- 1月 自由制作
- 2月 自由制作
- 3月 自由制作 縫製工場見学
- 4月 作品発表

濱田謙一

1967年東京都生まれ。1988年東京デザイナー学院卒業。PASHU、丸紅、COMME des GARÇONSを経て現在フリー。映画、舞台、CM、衣装デザイン制作多数。東京を中心に、パリ、横浜等にて個展、グループ展。2010年ロシアモード誌にファッショントピック連載、美学校も紹介される。

〈特別講師〉

- パターン
荒熊 淳（元コムデギャルソン）
- 縫製
小林秀明（アウラヒステリカ代表）
- その他



講座 WEB ページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

実作講座

「演劇 似て非なるもの」

生西康典

定員：10名

授業日：週替わりで月曜日と金曜日

19:00～22:00

※ 授業日は WEB に掲載しています。

教科維持費：25,000 円（通額）

※ 教科維持費は制作実費を含みます。

開催教室：本校＋スタジオ

始まりは何かをつくるってみたいという静かな衝動です。

でも、それが何なのか、何をどうしたら良いのか分からぬ。

それを見つけるためには遠回りに思えても、

手ぶらで集まって話すということから始めたいと思います。

創作に関することだけではなく、ささいなこと、雑多なこと。

ゆっくりと話を続けているあいだに、

自分にも相手にもつくりたいものが少しづつ見えて来るはずです。

何かをつくるというのはゼロから始めるというわけではありません。

つくりたいものは必ずそのひとつの中に既にあるからです。

でも自分自身のことはなかなか見えません。

それを見つけるために一緒になって探し当てていきます。

やってみなければ見えてこないこともあります。

本校で対話するのと同時にスタジオでは自分が書いた言葉や他者が書いた言葉を声に出してみるとことも試していきたいと思っています。

演じるということは、言葉に声を与えることでしょうか、

言葉にからだを明け渡すことでしょうか。

これは僕の考えですが、演じるためには他者の言葉が必要だと思っています。

自分の言葉ではなく他者の言葉を声にしてみる。

他者を通して生のままの「その人」が現れて来ると感じています。

そして発話を伴わない身体化された深い言葉もあるということも書き添えておきます。

完璧なものなど出来なくとも構いません。

とにかく最後に修了公演というかたちで他者に見せてみます。

そのことで自分の中になかなかったものが、

ひとつの作品として他者の目に触れることになります。

自分では見つけられない大切なものを他者が見ってくれることがあります。

見つかればそれを抱えて続けていくだけです。

続ければ続けるだけ、自分にとっての問題が見えてきます。

その問い合わせを実感を伴って解いていくことが出来るのは自分だけです。

あなたが話しを始めるのを待ってくれる人がいます。

話を聞いてくれる人がいます。

話し始めるのを一番待っているのは自分自身だと思います。

2023 年度の開催形式について

週替わりで本校とスタジオを交互に開催します。本校では対話を重視し、スタジオではその実践としての稽古を行い、最後に修了作品を制作します。それぞれがどういう作品を作るのかは、1年を通して話したり試したりするなかで、一緒に探していくます。

(生西康典)

生西康典

1968年生まれ。舞台やインスタレーション、映像作品の演出などを手がける。作品がどのようなカタチのものであっても基本にあるのは人とどのように協働していくか。自分自身を形作っていると信じられている殻がとけた時にはじめて現れる「その人」が見たい。その時「人」はありとあらゆるものと触れあっていけるだろう。近作は『抱えきれないたくさんの四季のために』(2022、SCOOOL)、『棒ダチ 私だけが長生きするように』(2021、Tokyo Real Underground)。主なインスタレーション作品に『おかえりなさい、うた Dusty Voices , Sound of Stars』(2010、東京都写真美術館)。書籍:『芸術の授業 BEHIND CREATIVITY』(中村寛編、共著、弘文堂)。



講座 WEB ページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

特殊漫画家 - 前衛の道 ～商業漫画と特殊漫画 - そのあいだ～

根本敬

私は 81 年以来非商業的なへたウマームの追い風もあり、当時としては前衛的な「特殊漫画家」として（この呼称は自称です）世に出て幸いにも下積み期間もなくこれを職業として成り立たせ、やがて複数の扶養家族を含め今日まで飢えることもバイト生活をすることもなくこの道一筋で生きて参りました。これは奇跡的なことながら、我が身を振り返ると、ごく自然な流れに乗り続けることが出来た結果とも言えます。とはいっても、私なりに趣味を職業とし生きながらえるにあたり、私なりの無意識の計算、体よくいえば「セルフプロデュース」能力はあったかと振り返ります。それが意識の深層に秘訣としてあるのは確かな様です。

その深層を無意識の濁から掬い、明るみにし、手に取り今まで「何故食べてこられたか」その意識無意識のあいだを受講生の皆さんに語り、時に問い合わせ、そしてこの講座は実際どうなるかはさておき、あくまでも漫画講座なので、しばしば即興的に皆さんとラフに漫画を描きながら探っても行きたいと思います。

高収入を得るには特殊漫画家は商業漫画家（漫画そのもので成功する。因みに特殊漫画には漫画そのものに商業的な成功はありません）と比べると非常に不利です。

しかし、目先をかえれば特殊漫画家は商業漫画家よりも生きながらえるに有利な職業であります。

とまれ。

これは、言うなれば「漫画講座」の体裁をとりながら、本来の属する表現ジャンルとは違う表現スタイルを特殊漫画の作法？から学びとり、それを自らの本来の表現に生かす。そこから「本業」としてバイトせずに食べていく秘訣を受講生の皆さんと探る講座にしていく所存です。

一般的ではない他人（ヒト）と「どうも周りに違和感を覚える」というようなあらゆる非漫画の異なる表現ジャンルの方の受講もおおいに歓迎いたします。また、しっかりと美術教育を受け絵が上手くなりすぎ、下手くそになる必要のある方にもお薦めの講座です。

※当講座では性的描写を含むコンテンツの視聴や閲覧があります。予めご了承ください。

授業内容

- ・特殊漫画家とは？ - 現在の商業漫画と特殊漫画のあいだ
- ・しのぎこそ特殊漫画の醍醐味であり、可能性を拓く
- ・無意識を鍛えろ
- ・へたウマほど難しい『絵』はない
- ・漫画表現の越境
- ・事実より真理。そして真理はしばしば下らない事実の中に在る
- ・括りを与えたそばからこぼれ落ちるもの
- ・意味はないけど理由はある
- ・無秩序 - 混沌の翻訳。時に元ネタとしてのカオス
- ・絶対に成功出来ない者たちの棒振人生の数々等々

定員：10名

授業日：隔週火曜日 19:00～22:00

教課程維持費：5,000円（通額）

開催教室：本校

根本敬

1958年東京生まれ。81年月刊漫画『ガロ』9月号で漫画家デビュー。以後「平凡パンチ」に「生きる」などを連載。漫画の代表作は「怪人無礼講ララバイ」収録の「タケオの世界」とされる。「因果鉄道の旅」「人生解毒波止場」「ディープコリア（同盟との共著）」など文字の本は漫画本より読者が多い。2009年「真理先生」で第11回みうらじゅん賞受賞。幻の名盤解放同盟（昭和歌謡の濁を掬うコンピ「解放歌集」を編纂）の一員であり、東京キララ社の特殊顧問であり、マルセイユを拠点とするアート運動体ル デルニエ クリの一員である。



講座 WEB ページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

劇のやめ方

篠田千明

定員：10名

授業日：隔週火曜日 18:30～22:00

教程維持費：15,000円（年額）

※教程維持費は制作実費を含みます。

開催教室：本校

劇は始めるよりやめるほうが難しい。人前にでたくないというひとは、人前でなにかをやるのが嫌なのではなく、人前でなにかをやめるのが嫌なのでは、とすら思う。社会で起きている劇をやめるのはさらにとても難しい。と言うより、劇を認知することと社会を認知することはほとんど等しい。

つまり、ある劇を共有できることで生まれる社会の中に私たちは生きている。その社会全体を否定するわけではなくて、やめるべき劇があるのではないか。難しいけど、劇のやめ方を考えることはいま必要とされているように思う。

『劇をやめる』そのテキスト自体が、即興的に無数の劇を生み出す。

私は、作家としては、常に即興性を生み出す劇が生き延びるべきだと考える。即興性はより多くの声を吸い込み、より多くの身体を同時に成立させるからだ。ありとあらゆるありえない組み合わせを可能にする、『劇をやめる』という演劇を作る。

この講座では、年間の最後に修了展をやります。上演でも展示でもパフォーマンス作品でもかまいません。個々人での発表か、全員での発表になるか、それは講座の進行で変わってきます。オンラインでの実験も含んでいます。

演劇には興味があるけど集団はつらい、とか、近くで見るのこわい、とか、そういう人も歓迎です。対象となる年齢やパフォーマンス経験は問いません。誰かの誕生日を祝った経験や、来週の予定を立てる経験があるなら、それは劇を立ち上げた経験がある、ということです。

個人の生活に密着した劇は力強さがあります。

どれだけ多くのタイムラインや場所を吸収できるか、その力強さをぜひ、この講座で私と共有させてください。

篠田千明

2004年に多摩美術大学の同級生と快快を立ち上げ、2012年に脱退するまで、中心メンバーとして主に演出、脚本、企画を手がける。

以後、バンコクを拠点としソロ活動を続ける。「四つの機劇」「非劇」と、劇の成り立ちそのものを問う作品や、チリの作家の戯曲を元にした人間を見る動物園「ZOO」、その場に来た人が歩くことで革命をシミュレーションする「道をわたる」などを製作している。

2018年 Bangkok Biennial で「超常現象館」を主催。2019年台北で ADAM artist lab、マニラ WSK フェスティバル Music Hacker's lab 参加。



講座 WEB ページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

建築大爆発

岡啓輔+秋山佑太

定員：10名

授業日：隔週金曜日 19:00～22:00

(別日に外部実習を行う場合があります)

教科維持費：5,000円（通額）

開催教室：本校+外部

建築家でありながら、大工として現場で多くの経験をしてきた岡啓輔と秋山佑太によるハードコアな建築とアートの講座です。本講座は建築とアートの交差点となるでしょう。建築家志望の人も、アーティスト志望の人も、キュレーター志望の人も、ものを作りたい人も、場所を作りたい人も、今は建築にもアートにも関わりがない人も、この交差点に興味があれば来てください。

文・岡啓輔

アートってのは、すごく遠くにあって崇高で人類の宝みたいなもので簡単には近づけない、ヘッポコなオレなんかじや到底無理、、、と、基本ビビリまくっているんです。だけど、人がつくるものの面白さの沢山がそこにあって、知りたい！わかりたい！願わくばその秘技を手に入れて自分でもアートを作りたい！などと、脳味噌の片方では鼻息荒く思ってしまってもいます。

少しだけわかった事は、そもそも小手先でひねり出せるような、ハウツー教えてもらえるような簡単なものじゃないって事。深淵な「魂」の問題なのだ！と思ったり、もっとピヨロピヨロ～と軽く現れてきよったり、神出鬼没なものですよね、アート。僕は、その「アート」という領域に「建築」をベースにして近づこうと試みている者です。2005年の暮、穴を掘りはじめ、16年経った今も完成に向かって毎日建築を作っています。建築の名は「蟻鰐鳶ル（アリマストンビル）」。平均寿命35年と言われる短命過ぎる日本の鉄筋コンクリート建築に物申したく作り出したコンクリートは200年は保つ！と太鼓判を押されている。200年！！ビビるなあ、ただ頑丈に作るだけではダメで、200年後の人達にも大切にしてもらえるような建築になきゃいけない。200年後ってどんなだ？想像も出来ないほどの遠い未来でも価値があるモノ、そういう考え出したら、もう、アートを考え出さざるを得なくなつたのです。

あと、この2021年、事情があり家を出、ホームレスとなりボロボロになっていました。起きている事態が理解出来ず、人との別れが辛く、悲嘆に暮れています。この絶望的な状況から救ってくれたのも「蟻鰐鳶ル」でした。僕がどんなにショゲていようと蟻鰐鳶ルはビカッ！と輝いていた。笑っちゃうほどキラキラしてた！明るい希望そのものじゃないか！スグーれしかった！

蟻鰐鳶ル、今から数年間、全集中で作り上げ鱗！僕は、浮かれてたりグチャグチャだつたりすると思うけど「建築大爆発」では、いつでも今考えてる事を正直に話していきたいと思って鱗。

文・秋山佑太

建築大爆発は、建築とアートの話をする場です。受講生の半分以上は、建築専門外の人です。流行りの建築界の話はあまりないです。建築とアートの基礎となる捉え方の話をします。そして、メンバーでリサーチを行い、個々のステートメントと作品をつくり、メンバー全員で展覧会をひらきます。

大きく言えば「人類がものを作ったり直したりする」そのバリエーションについて議論する場であります。

建築というワードを聞いて、多くの人は「建物」の事だと考えます。それも正解ですが「人間の営み」全体を構成する要素が建築です。

建築を構成する要素には、生活・家族・個人・感情・気配・空気・心理・宗教・血縁・法律・医療・福祉・資本・利権・資源・技術・光学・物理・道具・気候・光・風・水・火・地層・土壤・植物・岩石・廃棄物…と、あげきれないほど様々あります。

建築は専門家のものではありません。全ての人類にとって、自分事であるジャンルです。建築との関わり方や考え方、無限のレパートリーがあります。

あえて建築を「作る」側と「使う」側に分けたときに、その間には「直す」と「壊す」があると思います。

水道管や電線や道路などのインフラは、常に整備されているのが当たり前だとみな思っています。住まい手が居なくなつて腐敗した家は、誰かが壊さないとなりません。生活の上で必要な環境を維持する役割を、誰かが担っています。

人間の環境や営みから建築を考えていきます。それは衣食住から考える事でもあります。まず衣食住から考えて作ってみましょう。その延長で「ものづくり」を捉え直してみましょう。

衣食住をベースとした建築を通して、作品や活動や表現を発表する意味も捉え直事が出来ます。その先に、アートという価値を転倒させたり反転させる表現の基礎も築けるはずです。

岡啓輔（建築家）

1965年九州柳川生まれ、一級建築士、高山建築学校管理、蟻鰐鳶ル建設中。ウイークポイントは、心臓、色覚、読書。1995年から2003年まで「岡画郎」を運営。2005年、蟻鰐鳶ル（アリマストンビル）着工。2018年、筑摩書房から「バベル！自力でビルを建てる男」を出版。2019年「のせでんアートライン2019」に参加。

秋山佑太（美術家・建築家）

1981年東京都生まれ。美術家・建築家。作業員や建造物を扱い、移動や集積といった方法で地靈を呼び起こす作品を制作。近年の主な企画展示に、2021年「スーパーピビジョン」(WHITEHOUSE・デカameron・東京)、「破線と輪郭」展(ART DRUG CENTER・宮城)、2020年「芸術競技」展(FL田SH・東京)、2018年「モ デルルーム」展(SNOW Contemporary・東京)「新しい民話のためのプリビュアライゼーション」(石巻のキワマリ荘ほか・宮城)、2017年「超循環」展(EUKARYOTE・東京)「グラウンドアンダー」展(SEZON ART GALLERY・東京)、2016年「バラックアウト」展(旧松田邸・東京)など。



講座WEBページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

アートに何ができるのか ～次に来る「新しい経済圏」と アーティストの役割を考える

荒谷大輔

アートとは何でしょう。ハイカルチャーと呼ばれたものは「天才」という概念を弄んだ19世紀以降の短い歴史の果てに、今や絶滅危惧種として残っているにすぎません。その代替となったサブカルチャーも、資本主義社会の枠組みを前提にした価値の共有手段になっています。資本主義の狂騒の中で「神」として祀り上げられる芸術家のあり方も、しかし、資本主義の枠組み自体が軋む中で、すり減らされながら余命を数えている段階にあるように思われます。

この講座では、まず現在アートがおかれている社会的な状況を振り返って考えながら「アート」と呼ばれるものの本質を明らかにします。参加者が知らないうちに身に着けている価値観の前提を問い合わせつつ、それでも直観的にはおそらく各人が捉えているアートの本質を、ディスカッションの中で明らかにしていければと思います。

その上で「アートができること」を、私たちが日常を営む生活経済圏をまるごと問い合わせで、実践的に探求していきます。それが、この講座の最終的な目標です。「実践的」というのが非常に重要なところで、参加者（とその周辺の人々）によって実際に、新しい経済圏を作ることが目指されます。美学校という場所はそもそも、そのために作られたのではないかと僕は思っているのですが、校長には確認してません。

これまで積み重ねられてきた数々の試みの上にすでに成立している場のちからを借りながら、今までにこの時代に実践的学者としてできることを探つていきたいと思います。

みなさまのご参加をお待ちしています。

授業内容

講義とディスカッションを繰り返す中で、講師を含めた参加者が無意識のうちに前提にしている価値観を浮き上がらせていく、それが凝り固まっている場合にはほぐしていきます。否定はしません。マッサージします。深呼吸する余裕があれば、コリは自然にほぐれていくかと思います。身体性大事。もしかしたら参加者の希望に応じて、実際に身体を動かすワークをするかもしれません。

そんな中で、現代の人々の考え方を無意識のうちに規定している歴史的な構造を明らかにし、現状の資本主義社会を越える新しい経済圏の可能性を提案します。講師が近年取り組んでいるブロックチェーン技術を用いた透明性の高い信頼経済圏の提案です。これだけだと何が何やら分からないとは思います。講義の中で小出しにしていなければと思います。これはあくまで提案で、参加者の方々の身体を拘束するものにならないよう十分に気をつけるつもりです。が、少なくとも現行社会の「当たり前」を本質的なところから見直すきっかけにはなるかと思っています。

そうして最終的には、何らかのかたちで「実践」ができればと思います。成り行き次第のところもありますが、その「実践」はアート作品を作ることかもしれませんし、演劇やダンスを上演することになるかもしれません。あるいは、何らかの信頼経済圏を作ることになるかもしれません。

定員：8名

授業日：隔週火曜日 18:30～21:00

教科維持費：5,000円（通額）

開催教室：本校

荒谷大輔

慶應義塾大学文学部教授。専門は哲学／倫理学。主な著書に『資本主義に出口はあるか』（講談社現代新書）、『ラカンの哲学：哲学の実践としての精神分析』（講談社メチエ）、『「経済」の哲学：ナルシシスの危機を越えて』（セリカ書房）、『西田幾多郎：歴史の論理学』（講談社）、『ドルレーズ／ガタリの現在』（共著、平凡社）など。演劇の脚本を書いたり、ダンス作品のドラマトゥルクを担当したり、自分で暗黒舞踏を踊ったりしています（<https://bigakko.jp/event/2021/engeki-shuryokoen>）。



講座 WEB ページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

アレンジ & ミックス・クリニック ～自分の楽曲の完成度を高める

草間敬

本講座では、音楽作品のクオリティを決定する重要なファクターである『アレンジ（編曲）』と『ミックス』を中心に学びます。

楽曲の構成や編成を練り上げ（アレンジ）、それらを魅力的なサウンドに落とし込んでいく（ミックス）ことは、思いついたメロディや音楽的アイディアをより良い形でリスナーに伝えるためにますます重要になってきています。

しかしアレンジやミックスは流行やジャンルなどによって大きく左右される要素であり、常に不变の“正解”が存在しないため、制作に当たってジャッジに迷う方も多いのではないでしょうか。

この講座では、時代を問わず必要な普遍的な基礎スキルから、より実践的な現在進行形のスタイルに至るまで、各自の音楽作品をより良い形でプレゼンテーションするための技術を身につけることを目指します。

「自分の求めるサウンドにとってのゴールがどこなのか？」を把握し、そのために必要な技術を習得し、そして経験豊富な講師のフィードバックを浴びることで、確実に自分の目指すサウンドに近づくことができるとでしょう。

授業内容

毎回の授業では、受講生の作品講評と講義を行います。

作品講評では、受講生の作品を聴き、良いところ・改善した方が良いところなどを全員で話し合います。講師からの指導のみならず、趣味志向や活動ジャンルの異なる受講生同士が切磋琢磨しあうことが出来ます。少人数クラスの強みを生かし、各自の個性を尊重しながら楽曲クオリティの向上を目指します。

講義では、アレンジやミックスに関する知識を基礎から実践まで解説していきます。5月～9月までは基礎的なトピックを扱い、10月からはより実践的な内容にすすみます。また、受講生のレベルや理解、リクエストなどに応じて適宜内容は変動します。加えて、講義だけでなく受講生のプロジェクトファイルを添削する形でアレンジやミックスを実演するなど、実践的かつ具体的な内容になっています。

【講義パートで扱うトピック】

◆ 5月～9月【基礎編】

- ・音楽理論基礎
- ・ベース、上物など
- ・ミックス基礎
- ・アレンジ&ミックス実演

◆ 10月～3月【応用編】

- ・メーターと音圧
- ・ミックス応用
- ・アレンジ&ミックス実演

定員：8名

授業日：隔週木曜日 19:00～21:30

教程維持費：5,000円（通額）

開催形式：オンライン

授業アーカイブによる復習と補完

授業は毎回アーカイブし、録画データをVimeoにてストリーミング／受講生限定公開にて提供いたします。

草間敬

アレンジャー、レコーディングエンジニア。

音楽理論からシンセサイザーまで幅広いスキルを有し、AA=, 金子ノブアキ, KenKen, RIZE, [Alexandros], BIGMAMAなど、20年以上に渡って多くのミュージシャンの制作に関わる。

ableton Live 認定トレーナーでもあり、ableton Live に関するレビューと講演も多数。近年は制作のみならずライブオペレーションでも活躍中で、AA=, 金子ノブアキ, SEKAI NO OWARIなどのステージをサポートする。



講座 WEB ページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

美楽塾

JINMO+不定期でゲスト

定員：10名

授業日：木曜 20:00～22:00

(毎月1～3回／年間20回)

※開催日は、参加受講者間で予定調整を行い決定していきます。

教程維持費：5,000円（通額）

開催教室：外部

かつて松下村塾の吉田松陰師はいった、「諸君、狂いたまえ。」

現代の芸術教育などに於いては、"如何に処理して、如何なるアウトプットを実現するのか"ということのみに眼が向けられ、それを当然として疑う者が少ない。

しかし、真実には、こうした技術論以前に "如何なるインプットを" という問題こそ重要であり、良質のインプット無しには良質のアウトプットはあり得ない。

食べたものに応じたウンコしか出る訳があるまい。

美しいインプットに貪欲であれ。

本講義は芸術表現の技法や知識といった "情報" の伝授の場ではない。五感、総ての感覚器官で対峙する状況における美の "体験" を実感する場としたい。

その為に例え非常識と謗られようと校舎といった限定空間を拒絶し、また決まった曜日・時間といった予めの決め事からも解放された講義にする。

また講義中の飲酒、喫煙、飲食、放尿、飲尿、全裸、自慰、縛縛、女装、Tweet などは完全にOK（総て過去実際におこなわれた）だ。

更に何をしても良いという自由だけでなく、何もしなくても良いという自由も同時に、私は保証する。

頻繁に各界から刺激的なゲストも呼ぼう。

数十世紀の時間の中でエスタブリッシュされた "美学" の中ではなく、歴史的堆積や文化的共通認識といった情報現実のもたらすフィルター類に干渉されない、各受講生中の絶対的な唯一個の "美意識" の天真爛漫な自由奔放を実現したい。

幼子の頃、泥だらけ、傷だらけになる事も厭わず、「晩御飯ですよ」という母親の声も耳に入らず、常識通念も規則規範も社会的承認とも無縁に、日暮れの幼稚園の砂場で一心不乱に遊んでいた時の砂の触覚美、草の嗅覚美、土の味覚美、風の聴覚美、そしてふと眺めた夕焼けの視覚美…、まだフィルターを身に纏わなかったその頃、対峙する状況には豊富な美との邂逅が確在し、美の価値の上下などそこには無く、幼子の五感に世界は美しかった。

今日において成長や学習とは果たして、世界をより美しく知覚させてくれるのだろうか。

畢竟、美とは学ぶものなのか。

諸君、"美楽塾" とは、永遠の砂場である。

共に世界を遊び狂い、美を楽しみ狂おう。

諸君、狂いたまえ。

JINMO

書家を母に持ち、幼少期から書を始める。絵画、書、コンピュータ・グラフィックス、アニメーション等、表現のメディアやジャンルに拘らない視覚芸術を創出する一方、ギター奏者としても活動。国内はもとより海外で数百回に及ぶ公演をおこなっている。また、『ギター・マガジン』にコラムを連載するなど、多方面に活躍する。

過去のゲスト講師

遠藤ミチロウ（ミュージシャン）、クラース・ヘックマン（ミュージシャン）、GMナイル（ナイルレストラン店主）、なつみ女王様（BDSM）、大野慶人（舞踏家）、クリストフ・シャルル（武蔵野美術大学准教授・メディアアート）、岡田聰（精神科医 / MAGIC ROOM??? オーナー）、住倉カオス（猥談家）、いくさばら とれは（肉体改造）、珍佐清（浅草ロック座総監督）、安達かおる（監督、V&R代表）、浅井隆（アップリンク社長、映画プロデューサー）、山田聖子（株式会社アートジャパン代表、靖山画廊代表）、Abe "M" Aria（ダンサー）、スティーヴ エトウ（パーカッショニスト、重金属打楽器奏者）、Jan Marsupials Spanedal（パーカッショニスト・ドラム奏者、"Marsupium Massacre" 代表）、Jaakko Saari（ドキュタリー映像作家・フォトグラファー）、Kid'O（ショップ "Kurage" オーナー、Specializing in latex art）、ANANYA（媒体業）、白柳龍一（ナクソス・ジャパン株式会社 取締役副社長 COO）、瀧川虚至（メカニック・イラストレーター、画家）、小倉正史（美術評論家）、山岸厚夫（漆象、漆工芸作家）、Dawn Mostow（ファッショントレーナー・デザイナー）、ダニー田中（マジシャン）、久住昌之（漫画原作者）、上祐史浩（「ひかりの輪」（東西の思想哲学の学習教室）の代表）、臼井欽士郎（ブロボクサー）、山浦嘉久（思想活動家 国際政治研究家）、Chris Cardone（Bass Player）、坪内隆彦（ジャーナリスト、『月刊日本』編集長）、武田崇元、山岸厚夫・山岸芳次、マリア、杉原悠久、木戸茂成、坪内隆彦（ジャーナリスト、『月刊日本』編集長）、小室芹奈（元AV女優、緊縛師、タレント）、牧田碧（歌人）



JINMO

講座 WEB ページ
インタビューやレポートなどを
掲載しています

Q & A

▼入学試験はありますか？

ありません。申込みをして学費を納入すれば、誰でも入れます。年齢や学歴による制限もありません。

▼高校生ですが入れますか？

入れます。不安があればご相談ください。

▼未経験者でも大丈夫ですか？

大丈夫です。どの講座でも、経験者と未経験者が混じって受講していますが、原則的に未経験者を前提として授業を進めていきます。ただ音楽系の一部教程では、経験者を前提としている講座がありますので、ご注意ください。その場合は、講座のページに明記してあります。

▼学校見学会や説明会はありますか？

あります。5月期（新年度）は毎年冬から春にかけて毎月、10月期（編入）は9月を行っています。見学会・説明会以外にも、個別の学校見学や入学相談など随時受け付けていますので、ご希望の方は、気軽にお問い合わせください。

▼申込み時期はいつですか？

5月期（新年度）の募集は、前年の12月後半から、10月期（編入）の募集は、8月中旬頃から開始しています。申込み締切りは、5月期は3月末、10月期は9月末です。先着順ですので、お早めにお申込みください。

▼1クラスの平均人数を教えてください？

少ないところで2,3人から、多くても10人程度です。楽理基礎科のみ15人程で授業を行っています。

▼課題はどれぐらい出ますか？

講座によって異なりますが、社会人の方も多く来ていますので、そういった方々が時間的にこなせないような量の課題が出ることはありません。

▼授業見学はできますか？

できます。連絡なしでいきなり授業見学に来ていただいても構いませんが、学外で授業を行っている場合もあるので、念のため事前にお問い合わせください。

オンライン教程の場合は10ページの「4) オンライン授業の見学について」を確認の上ご参加ください。

▼修了試験はありますか？

ありません。講座の修了について、試験や単位、修了制作などの制限が課されている講座はありません。

▼授業以外の時間で教室は使えますか？

使えます。午前中は授業がないので、いつでも使えます。午後と夜は、授業が入っていない時であれば使えます。使用目的としては、制作や受講生同士のミーティングなどが多いですが、たまに飲み会なども開かれているようです。使い方でわからないことがあれば、事務局スタッフに聞いてください。

▼どんな人が来ていますか？年齢、職業、男女比を教えてください。

老若男女様々な人が来ています。高校卒業後に来る人、大学（美大生だけでなく一般大生も）や専門学校に通いながら来る人、大学や専門学校を卒業して来る人、フリーター、社会人、会社を辞めて来る人、主婦、留学生など年齢や職業は様々です。年齢層は、美術系の講座は20代～30代が多く、音楽系の講座は30代が多いです。男女比は、美術系の講座は、6:4、7:3ぐらいで女性が多く、音楽系の講座は、8:2ぐらいで男性が多いですが、少人数のため年によって大きく変わることがあります。

▼修了生はどんな活動をしていますか？

本当に様々な仕事、活動をしています。中には、著名なアーティスト、イラストレーター、デザイナー、編集者、漫画家（etc.）などになった人もいますが、表に名前が出ない人でも面白い活動をしている人、いい作品を作り続けている人は数多くいます。また、美学校を出てから何かになるのではなく、既にアーティストやデザイナー、イラストレーター、ミュージシャン、編集者（etc.）として活動している人たちも来ています。

▼資格が取れたり就職できたりしますか？

資格を取るための講座は開講していません。就職の斡旋もしていません。資格や職を求めてこの学校に来る人はいないようです。

▼子どものクラスはありますか？

あります。NPO法人AESS主催で「子どものアトリエ」という講座を小学生対象で開催しています。詳細は美学校のWEBをご覧ください。

美学校 本校 見取り図

美学校は、神田神保町の路地にある貸しビルの3階にあります。1970年にこの場所に越してきてから50年が経ちました。歴史を経て作り上げられてきた美学校の内部をご紹介します。



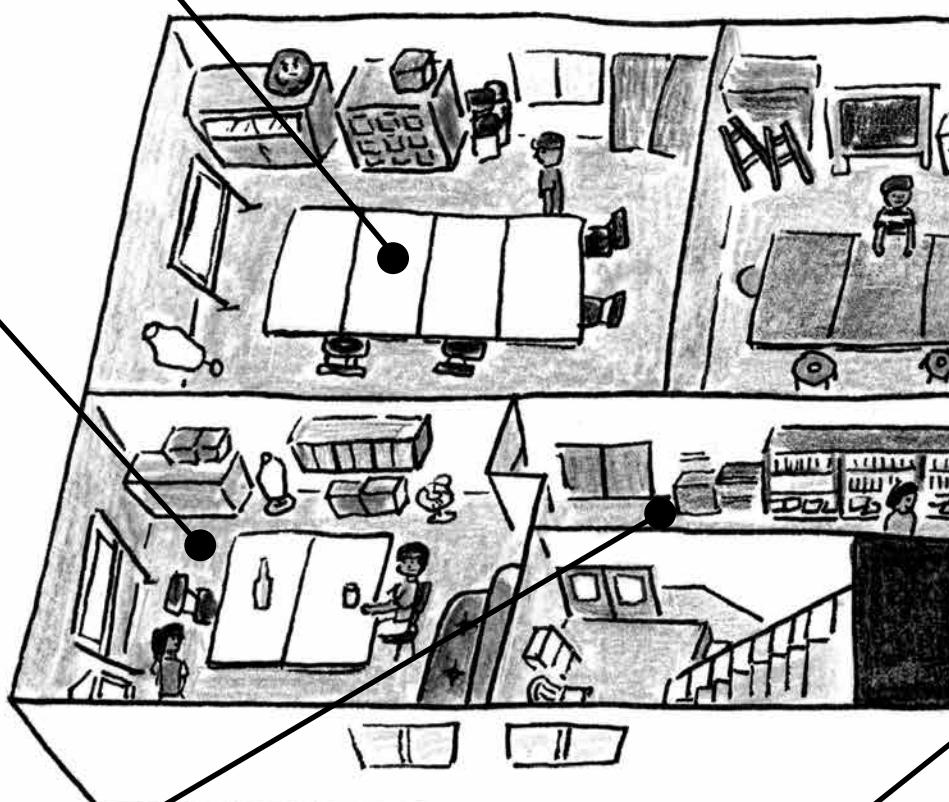
教場 1

通常の授業で使用しています。普段は合板を5枚並べたテーブルを囲んで授業を行っています。土日は、テーブルを片付けて、イベントやワークショップを開催することもあります。



小教場

講義系の授業が行われていたり、当校代表の藤川が本を読んでいたりします。相談事があれば藤川へ。入学相談から人生相談まで色々な話を聞いてくれます。授業時以外は開放しているので、気軽に入ってみてください。



廊下

展覧会やイベントのチラシやポスターがはられていたり、本棚には1970年代からの『ガロ』や『美術手帖』など貴重な本があつたりします。本棚の一画は棚ガレリといいう小さなギャラリーがあります。チラシは自由に置いてください。



流し

歴史を経て、調理器具や食器が自然と揃いました。冬になるとみんなで鍋を作ったりする講座もあるようです。

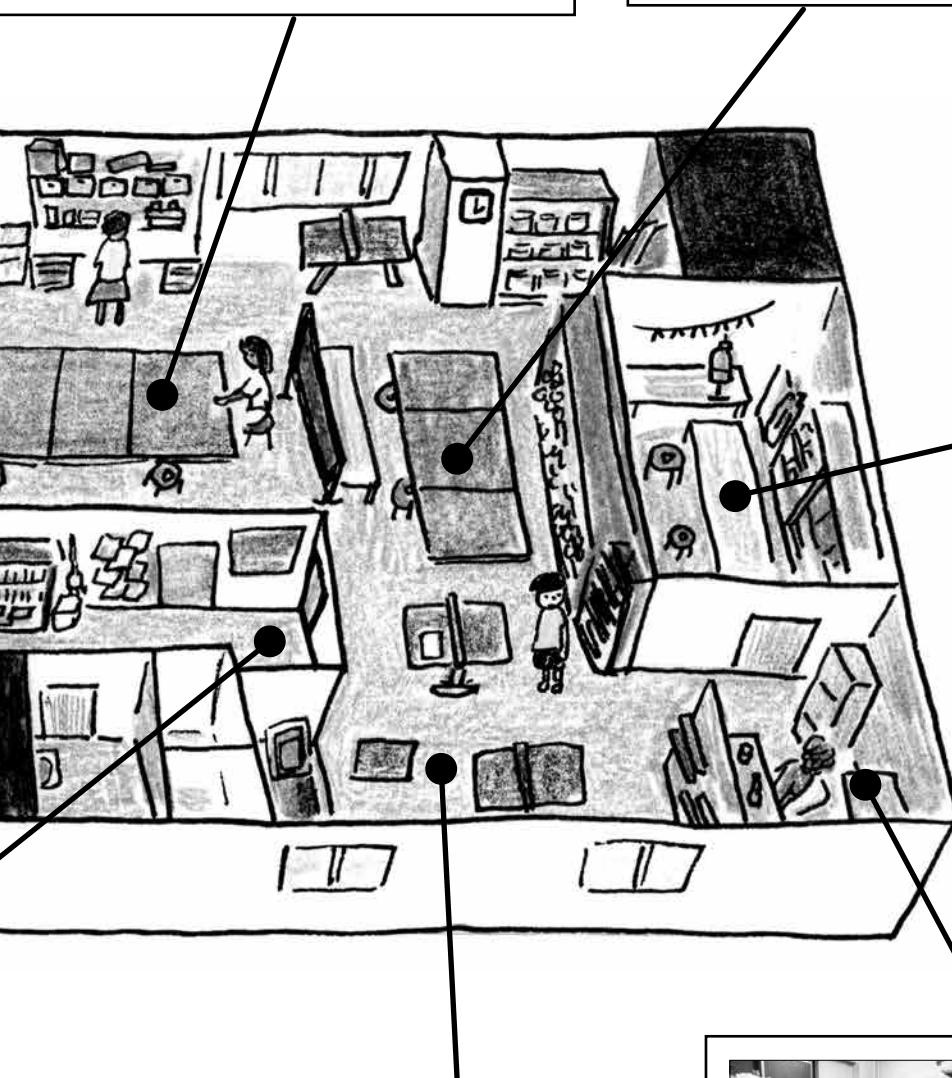
教場 2

教場 1 と同じ広さの教場です。こちらも通常の授業で使用しています。手作りの大きなライトテーブルや版画の製版用の露光機などがあります。



自習スペース

自習や課題の制作に使われているスペースです。長年美学学校に通っている人もここで作業しているので、スペースの使用でわからないことがあれば聞いてください。



暗室

写真工房の授業で使用している暗室です。写真工房の受講生はいつでも使用できます。



水場

石版画で使う石版石の石研ぎやシルクスクリーンの製版、銅版の腐食、アクアチントなどもここで行っています。



事務局

運営スタッフがいる部屋です。入学手続きやご質問はこちらでどうぞ。

イラスト：是澤ゆうこ

ハラスメントに関する基本方針

1969年の開校以来、受講生の国籍・年齢・性別・学歴不問を掲げてきた美学校は、いかなるハラスメントも容認しません。多様な価値観の人が集う場として、すべての受講生・講師・スタッフが、一人の人間として尊重されるよう、ハラスメント防止に努め、万が一かかる事態が生じた場合には、適正に対処します。

1. ハラスメントの定義

当校で起こりやすいハラスメントとして、以下の2つについて定義と事例を示します。下記以外にも様々なハラスメントが存在し、複数のハラスメントが絡み合って生じる場合もあります。

・セクシュアル・ハラスメント

相手の意に反する性的な言動によって相手に不快感や不利益を与え、就労や就学環境を損なう行為のことです。セクシュアル・ハラスメントにあたるかどうかの判断は、その言動を受けた本人が不快に思うか否かによります。

スリーサイズなどの身体的特徴を話題にしたり、性的な経験について質問したりする。「男のくせに」「女のくせに」といった、性別で差別しようとする意識に基づいた発言をする。(ジェンダー・ハラスメントとも呼びます。) 性的指向や性自認をからかいの対象とする。ヌード写真などをわざと見せたりする。個人的な指導と引き換えに性的な関係を要求したり、執拗に食事や酒席に誘ったりする。要求を拒否されたために、受講生を展示に参加させないなどの不利益を与える。など。

・アカデミック・ハラスメント

講師等が、意識的か無意識的かを問わず、自身の優位な立場や権限を不当に利用し、受講生の受講意欲や受講環境を著しく低下させる言動や指導のことです。

講義上必要のない授業の手伝いや私的な雑用を押し付け、断られたら叱責する。特定の受講生を他の受講生と差別して、必要以上に厳しい課題を課す。指導の範囲を超えて人格を否定する言動や脅迫的な言動を行う。求められた指導を正当な理由なく拒否する。など

2. ハラスメントを起さないために

何を不快に思うかは個人によって異なります。ハラスメントに当たるか判断がつかないときは、自分の家族や友人に同様の言動が向けられた場合を想像してください。また、講師と受講生の間に、NOと言えない力関係が図らずも存在していないか意識することを日頃から心がけてください。

自分の家族や友人に同じ事が言えるか、できるか。自分の家族や友人が同じ事を言われたら、されたらどうか。家族や友人に見られていても同じことが言えるか、できるか。

3. 被害に遭ったら

不快だと感じる言動を受けたら、我慢せずにそのことを相手に伝えてください。相手が不快感をもたらしていると気づいていない場合もあるので、不快であることを口頭または文書で伝えることで、解決可能な場合もあります。その場で伝えにくい場合や、抗議をしても言動が改まらない場合は、速やかに事務局に相談してください。必要に応じて外部機関と連携しながら問題解決に努めます。その場で拒否できなかつた自分が悪いのではないかと自分を責めたり、他の受講生に迷惑がかかるのではないかといった心配をする必要はありません。相談や情報提供にあたり、相談者や情報提供者のプライバシーは保護されます。また、相談や情報提供をしたことによる、不利益な取り扱いは行いません。なお、ハラスメント行為を受けたら、いつ、どこで、どのようなことを言われたか・されたかといった記録をとっておくと、問題解決時に役立ちます。

【相談窓口】 美学校 本校・事務局

T E L : 03-3262-2529 (平日 13:00 ~ 18:00) メール : bigakko@tokyo.email.ne.jp

4. ハラスメント防止のための啓発

あらゆるハラスメントの防止のため、本指針を講師・受講生に配布するほか、希望者には映像資料の貸出や講習の案内を行うなどして周知、啓発に努めます。

プライバシーポリシー

有限会社美学校（以下「当社」といいます。）は、当社の提供するサービスにおける、お客様の個人情報の取扱いについて、以下のとおりプライバシーポリシーを定め、その適正な取扱いに努めます。

1. 個人情報の取得

当社は、お客様に当社のサービスをご利用いただく場合や、サービスに関する情報を提供するために、お客様の氏名、性別、住所、電話番号、メールアドレス等の個人情報をご提供いただく場合がございます。

2. 個人情報の利用目的

当社は、お客様からご提供いただいた個人情報を以下の目的のために利用します。

- ・入校受付、本人確認および学籍作成のため
- ・学費のクレジットカード決済のため
- ・オーブン講座、公開授業、ワークショップ、その他各種イベントの予約受付等の対応のため
- ・学校連絡および授業連絡のため
- ・資料、募集要項の発送のため
- ・問い合わせへの回答のため
- ・見学、受講相談の対応のため
- ・Eメールマガジンの配信のため
- ・個人を特定しない範囲での統計的な利用のため
- ・上記の目的に付随する利用目的のため

3. 個人情報の第三者への提供

ご提供いただいた個人情報は、個人情報保護法その他の法令に基づき開示が認められる場合を除くほか、あらかじめお客様の同意を得ないで、第三者に提供しません。但し、次に掲げる場合はこの限りではありません。

3-1. 当社が利用目的の達成に必要な範囲内において個人情報の取扱いの全部または一部を委託する場合

3-2. 合併その他の事由による事業の承継に伴って個人情報が提供される場合

3-3. 国の機関もしくは地方公共団体またはその委託を受けた者が法令の定める事務を遂行することに対して協力する必要がある場合であって、お客様の同意を得ることによって当該事務の遂行に支障を及ぼすおそれがある場合

3-4. その他、個人情報保護法その他の法令で認められる場合

4. 個人情報の開示

当社は、お客様から、個人情報保護法の定めに基づき個人情報の開示を求められたときは、お客様ご本人からのご請求であることを確認の上で、お客様に対し、遅滞なく開示を行います（当該個人情報が存在しないときにはその旨を通知いたします。）。但し、個人情報保護法その他の法令により、当社が開示の義務を負わない場合は、この限りではありません。

5. 個人情報の訂正および利用停止等

5-1. 当社は、お客様から、（1）個人情報が真実でないという理由によって個人情報保護法の定めに基づきその内容の訂正を求められた場合、及び（2）あらかじめ公表された利用目的の範囲を超えて取り扱われているという理由または偽りその他不正の手段により収集されたものであるという理由により、個人情報保護法の定めに基づきその利用の停止を求められた場合には、お客様ご本人からのご請求であることを確認の上で遅滞なく必要な調査を行い、その結果に基づき、個人情報の内容の訂正または利用停止を行い、その旨をお客様に通知します。なお、合理的な理由に基づいて訂正または利用停止を行わない旨の決定をしたときは、お客様に対しその旨を通知いたします。

5-2. 当社は、お客様から、お客様の個人情報について消去を求められた場合、当社が当該請求に応じる必要があると判断した場合は、お客様ご本人からのご請求であることを確認の上で、個人情報の消去を行い、その旨をお客様に通知します。その場合、お客様が抹消された個人情報に基づいて利用されていた当社の提供するサービスは停止され、そのサービスのお客様の利用資格は失われます。

5-3. 個人情報保護法その他の法令により、当社が訂正等または利用停止等の義務を負わない場合は、前2項の規定は適用されません。

6. お問合せ

当社の個人情報の取扱いに関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。

有限会社 美学校

住 所：〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-20 第2富士ビル 3F

T E L : 03-3262-2529 (平日 13:00 ~ 18:00)

メール：bigakko@tokyo.email.ne.jp

美学校 本校／事務局

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-20 第2富士ビル3F

TEL. 03-3262-2529 (受付時間：平日 13:00 ~ 18:00)

E-mail. bigakko@tokyo.email.ne.jp

美学校 スタジオ

〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-6 宮川ビル 1F (袋小路奥)

※郵便ポストはありません。郵便物は本校にお送りください。

美学校 岡山校

〒700-0011 岡山県岡山市北区学南町 2-7-4

LIVE HOUSE PEPPER LAND 内

<https://bigakko.jp>

